

施策 No.	8	施策名	国際交流の推進
主管課名	くらし安全課	電話番号	0285-83-8719
関係課名	くらし安全課、秘書広報課、市民課、学校教育課		

1. 計画（Plan）

施策の対象	市民（在住外国人住民含）						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,144	77,635	77,578	76,972	76,498
外国人住民数	人	3,486	3,480	3,418	3,807	4,145	4,478

施策の目標	外国人住民と日本人住民が国籍や言葉の壁を越えて、主体的に国際交流を深め相互の生活習慣や文化を理解、尊重し合い、共に地域社会の一員として安心して暮らせるまちとなっています。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	・国際交流を行っている市民の割合は、市民意向調査を使用する。 ・姉妹校締結中学校数は、締結校数とする。 ・国際交流を行っている団体数は、国際交流協会の団体会員、及び交流活動に参加した団体数とする。 ・外国人相談件数は、外国人相談窓口や電話等での相談件数と庁内各課の窓口での通訳補助の件数とする。（1人で複数の相談あり）								
成果指標名		単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
国際交流を行っている市民の割合	目標値	%	14.0	14.2	14.4	14.6	14.8	15.0	15.0
	実績値			13.1	14.7	14.5	—	-	
市内に住んでいる外国人と交流している市民の割合	目標値	%	—	—	—	—	-	13.7	13.7
	実績値			—	—	—	13.5	17.4	
外国に住んでいる人と交流している市民の割合	目標値	%	—	—	—	—	—	7.8	7.8
	実績値			—	—	—	7.6	8.6	
姉妹校締結中学校	目標値	校	6	6	6	6	6	9	9
	実績値			6	6	6	6	5	
国際交流を行っている団体数	目標値	団体	20	21	22	23	24	25	25
	実績値			10	10	11	11	10	
外国人相談件数	目標値	件	7,222	7,277	7,333	7,388	7,444	7,500	7,500
	実績値			7,125	5,223	4,756	3,918	3,656	
	目標値								
	実績値								

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民の役割：国際理解に努め、積極的に国際交流に関わります。 行政の役割：国際交流を行う団体との連携を図り、交流の場を拡充します。 多言語による相談体制を充実させ外国人住民が安心して暮らせる環境を整備します。
-------------------------	---

2. 実行（Do）→個別事務事業の実施による（事務事業マネジメントシート参照）

3. 検証・評価と今後の方向性（Check&Action）

（１）施策目標達成に対する要因分析と課題（①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証）

１．国際交流イベントの開催

令和6年度は、国際交流イベントとして「いちご狩り」、「華道体験教室」、「日本料理教室」、「筆ペン教室」、「着物で街歩き」、「ブラジル料理教室」、「台湾茶教室」、「デコ和菓子教室」を開催し、延べ358人が参加した。

このほか、「イヤヤー・エンド・パーティー」を開催し、約200人が参加した。16団体が楽器演奏やダンスなどを披露したほか、各国の料理や雑貨の販売を行い、参加者と交流を行った。また、宇都宮大学の学生ボランティアや、北陵高校の生徒のグローバル学習の場としての受入れを行った。

外国人支援事業としては、「外国人向け防災教室」、「外国人向け交通安全教室」を開催し、延べ41人が参加した。

また、「やさしい日本語講座」、「日本語指導ボランティア養成講座（全5回）」を開催し、各15人が参加した。

海外友好都市との交流については、市制施行70周年記念海外友好都市交流事業として、グレンドーラ市、ハーヴィー市、斗六市からの訪問団の歓迎式やシンポジウムを開催したほか、ハーヴィー市と、両市民に向けたバーチャルツアーを開催し、真岡市と現地をオンラインでつなぎ、相互理解及び交流を行った。

成果指標については、「国際交流を行っている市民の割合」を、交流の状況をより詳細に把握するために細分化し、「市内に住んでいる外国人と交流している市民の割合」と「外国に住んでいる人と交流している市民の割合」に変更し、2年目となる。「市内に住んでいる外国人と交流している市民の割合」は17.4%、「外国に住んでいる人と交流している市民の割合」は8.6%であり、前年度からそれぞれ増加している。要因としては、70周年記念事業により交流を行う機会が増加したことが考えられる。

２．多言語による相談支援

ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語による日常生活相談や庁内各課の窓口での通訳補助を行ってきたが、外国人相談件数は、昨年より6.6%減少した。

件数の多い相談内容は、生活一般に関すること、医療・福祉に関すること、税金に関することであるが、市民課の窓口で外国語の各種申請書の書き方を掲示したことや、こども手当の現況届の郵送による提出や税金の分納がコンビニでの納付が可能となったことにより、外国籍市民相談窓口を介さなくても外国人が自ら手続きができる態勢がより定着し、相談件数が減少したものと考えている。

外国人の人数は、令和4年度までは減少傾向にあったが、令和5年度以降は増加に転じていることから、引き続き日常生活や社会活動の変化等に対応した丁寧な相談と、窓口における「やさしい日本語」の普及が必要である。

また、その他の言語による相談は、ポケット（多言語通訳機）を利用して行ったが、ICT技術を利用した相談態勢を整えていく必要がある。特に、増加しているベトナム人については、現在、就労先の事業所が各種行政手続き等について対応している状況があり、市への相談はないが、今後、定住または永住権を得た場合、相談の増加が予想されることから、ベトナム語の通訳相談員を確保する必要がある。

３．国際交流を行う団体との連携

国際交流を行う団体が新たに発足していないことから、「国際交流を行っている団体数」は横ばいである。このため、既存の国際交流団体との連携を継続している状況であるが、日常生活や社会活動の変化に伴い、日本語教室の充実や日本語教室の指導者のスキルアップが求められる。

４．中学校の姉妹校交流を通じた国際交流を担う人材育成

令和6年度は、真岡中、二宮地区3中学校の4校が派遣を実施した。受入れについては、真岡東中・中村中のほか、大内中が相手国の事情により姉妹校と交流ができない状況であることから、真岡西中と姉妹校である台湾斗六市正心高級中学校の受入れを合同で実施した。山前中においては相手校の都合により派遣受入はなかったが、教員・生徒がメール等のやり取りし、交流を図った。

また、山前中が姉妹校を締結しているアメリカボルチモア市サドブルック中からの通達により令和7年6月30日をもって姉妹校関係を終了することとなった。

今後の課題としては、二宮地区3中学校の交流校との関係構築の支援と、山前中が真岡東中と姉妹校であるグレンドーラガダード中との合同交流に向けての調整が必要である。

（２）今後の方向性（（１）の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す）

１．相互理解を深める交流機会の確保

これまで、国際交流協会において、日本人と外国人の相互理解が深まるような、イベントを多数開催し、多くの方が参加し交流を行ってきた。

また、海外友好都市との都市間交流については、グレンドーラ市、ハーヴィー市、斗六市と、訪問やオンライン等での交流を行った。

今後も、引き続き、相互理解を深められるような国際交流イベントや都市間交流を実施するとともに、より広く情報を発信していく。

各学校が姉妹校との交流を通じて国際交流が進められるよう、引き続き、海外派遣・受入を実施していく。市教育委員会では、市内全中学校での継続的な姉妹校交流が図れるよう、関係学校への支援を継続していく。

２．国際交流を担う人材の育成

高校生の海外留学やインターンシップ等の人材派遣を支援するとともに、交流活動を通じ、ボランティアなどの担い手の育成を図る。

３．外国籍市民の生活環境の整備・支援

これまで、市役所窓口における通訳相談や、行政文書の翻訳業務を国際交流協会に委託し、コミュニケーション支援を行った。

また、国際交流協会において、外国人向けの「防災教室」や「交通安全教室」を開催したほか、「やさしい日本語講座」や「日本語指導ボランティア養成講座及びスキルアップ講座」を開催し、日常生活において言語サポートをする人材の育成を行った。

このほか、日本語教室を開催しているNPO法人や、母国の言語や文化を子どもたちに継承することを目的としたスペイン語教室を開催している外国人団体に対し、支援を行った。

今後も、外国籍市民が安全・安心に暮らせる環境を確保するため、引き続きこれらの支援を行うとともに、雇用や災害時の情報についても発信していく。

４．

4. 構成事業一覧（個別事務事業一覧）

[illegible]